

保護者各位

鳥取西小学校 校長

高畠 昌之

「いじめ防止」が機能している文化とは？

『理性が働き、理論的に物事を考え、言行一致(言うこととやることが一致)する文化』があるところは、「**自己決定・自己責任**」が機能している。

『感情的で理屈と行動が一致していない(言行不一致)文化』があるところは、「**匿名性**」が強く**責任の所在があいまい**である。学校で名札を付けるのは、常に自分の名前を表に出すことで「匿名性」を排除するねらいがある。

- 集団心理の落とし穴 -

1. **匿名性** … 集団になると「みんな」になる。個別の責任から解放される。
2. **被暗示性** … 影響力のある者に同調して、暗示をかけられたようになる。
3. **感情的** … 理論的でなくなり、感情に流されて正しい判断ができなくなる。
4. **力の錯覚** … 何か強くなったように感じ、**万能感(何でもできる)**が強くなる。

集団の落とし穴を知っているリーダーは、「匿名性」を薄くする工夫をする。「それは、あなたの意見ですか？」と暗示を解くような質問をしたり、感情に支配されないように「深呼吸」や「場を離れる」などの行動を教える。強いと思う錯覚から覚めるように状況に応じて一人にさせたりする。

《 いじめ4層構造で分析する 》

いじめっ子
ギャラリー
傍観者
いじめられっ子

- ① 「いじめっ子」 ② 「**ギャラリー(観衆)**」
③ 「傍観者」 ④ 「いじめられっ子」

「いじめを見ているだけの者は、いじめっ子と同じで同罪だ!」という意見がある。面白がった表情・態度で見ている「ギャラリー」と怖くて見ているだけの「傍観者」は全く違う。この区別化は、いじめ指導を行う際にとっても重要なポイントになる。

いじめ分析の際には、「**4層構造**」をしっかりと観察する。

いじめがエスカレートするのは、はやし立てる**ギャラリー**の存在が大きい。面白がるギャラリーの存在が、「集団心理4つの落とし穴」にはめていき、「いじめ行為」を強化する。ギャラリーと傍観者の区別は、難しいところがある。野次馬的な行動や好奇的な表情や態度、はやし立てるような言葉がけ、いじめっ子を興奮させる告げ口などの具体例を出す。そして、それは格好悪いという「恥の文化」やいじめの中心であるという考え方を説明する必要がある。